

身近な"京都を彩る建物や庭園"の推薦をお待ちしています

この制度は京都の歴史・文化の象徴として残したい建物や庭園を募集,リスト化し, 地域の誇りとして守っていこうというものです。

募集内容 京都の財産として残したいと思う建物や庭園

※自薦他薦は問いません。

※所有者への同意確認は,審査後,京都市が行います。

世代を超えて継承され、京都の歴史や文化を象徴する建物や庭園

※おおむね50年以上経過したもの ※所在地が京都市内のもの

※国・地方公共団体が所有のものは除きます。

応募資格·条件

京都市内に在住,通勤又は通学されている20歳以上の方 応募はお一人一年度(4月1日から3月31日まで)につき3点以内とします。

応募方法

所定の応募用紙に必要事項を御記入のうえ、郵便、電子メール又は持参にて御提出ください。 (FAXでの応募は受け付けておりません。)

※応募用紙は市役所等で配布しています。

※ホームページ(http://kyoto-irodoru.com/)からもダウンロードできます。

詳しくは応募用紙を御覧ください

応募からの流れ

市民の皆様からの推薦

審査および選定

審査会で審査し,所有者 の同意を得て選定

選定された建物や

公表の同意をいただき京都市 ホームページなどで公表します。

庭園の発表

認定に向けた 調查•審查







認定

\スマートフォンからも簡単に応募いただけます!/

写真もスマートフォンで撮影してアップロードできます。是非御利用ください。 http://www.kyoto-irodoru.com/mobile/clipmail/oubo.html



〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394 Y・J・Kビル2階 京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課

**** 075-366-1498

□□□ http://kyoto-irodoru.com/ メールアドレス: bunka-hogo@city.kyoto.lg.jp





"京都を彩る建物や庭園"制度について

京都市では,市民の皆様が京都の財産として残したいと思う建物や庭園を,公募によりリスト化する"京都を彩る建物や庭 園"制度を実施しています。これは,所有者のたゆまぬ努力により,世代を超えて継承されている建物や庭園を,京都の歴史や 文化の象徴として市民ぐるみで残そうという気運を高め,維持・継承・活用を図るものです。

市民の皆様から推薦のあった建物や庭園は,審査会を経て,"京都を彩る建物や庭園"に「選定」されます。また,選定され たもののうち、特に価値が高いと認められるものについて「認定」いたします。

※現状変更や所有権移転に対して、何らかの義務を課すものではありません。

"京都を彩る建物や庭園"に選定・認定されると

1. 「選定証」・「認定銘板」の授与

選定については、北山杉で作成した選定証をお渡しします。 認定については,漆塗りに,書家の杭迫柏樹(くいせこはくじゅ)氏(京都市 文化功労者) に揮毫いただいた「彩」の文字を蒔絵で表現した認定銘板を お渡しします。

2.「所有者交流会」の開催

所有者が抱える悩みや知恵を共有いただき, 更なる維持・活用を図るための 知見を深める機会を提供いたします。

3.「彩る通信」の発行

各所有者の取組事例などを紹介する機関紙「彩る通信」を発行します。

4. 「助成制度」の利用

維持・継承の確実性を高めて一層の活用を促進するため,修理等に対する 助成制度を利用いただけます。



選定証(木製160mm×130mm)



認定銘板(漆塗り257mm×182mm)

"京都を彩る建物や庭園"の推薦、審査及び選定状況

平成23年11月に公募を開始し、これまでに市民の皆様から推薦された600件あまりの建物や庭園を審査会で審査し、 所有者の同意を得た420件を選定、このうちの131件を認定いたしました。(平成31年3月現在)

京都の歴史や文化を象徴する建物や庭園の中には、その存在と魅力が十分に伝わっていない ものや,維持・継承が危ぶまれているものも数多くあります。

"京都を彩る建物や庭園"制度は、京都の財産であるそのようなすばらしい建物や庭園について、 市民ぐるみで残そうという気運を高め、次代への継承を図っていくためのものであります。

市民の皆様お一人お一人には、それぞれの大事な「京都」を思い出させてくれる建物や庭園が必 ずあります。是非とも、"京都を彩る建物や庭園"制度への積極的な御応募をお待ちしております。



門川 大作

- ・各建物・庭園については,個人住宅も多いことから,公開されていない所がほとんどです。 また, 所在地に関する情報について, 公開されている所のみお答えさせていただきます。
- ・所有者からいただいた公開等の情報は,随時,ホームページに掲載します。

・リスト公表に同意を得たものを掲載しています。

- ・各建物・庭園については、公開されていないところがほとんどです。
- ・各建物・庭園の紹介文は,応募時推薦文からの抜粋です。
- ・各区ごと、認定・選定、それぞれ五十音順に掲載しています。
- ・物件に関するホームページがある場合、HPと記載しています。
- ・新たに選定・認定された建物・庭園については、NEWと記載しています。
- ・文化財(建造物,名勝)に指定・登録されている建物や庭園には文と記載しています。
- ・景観重要建造物,歴史的風致形成建造物,歴史的意匠建造物に指定されている建物には帰と記載しています。

NEW



行政区別リスト

第3-031号

井関家認定

明治に増築された3階部分は,四面 が開く望楼風の建物となっている。 枯山水の庭園には、おがたまの木 や石灯籠があり、また、手水鉢の前 には龍の口と呼ばれる排水口など が設けられ, 先人の知恵が随所に みられる建物と庭園である。 🕱

今宮神社認定



長保3年(1001)創建の神社。 現在の社殿は西陣の町衆を 中心に明治35年(1902)に再 建された。南参道と楼門は 大正期に,参道の大きな鳥 居は昭和3年(1928)に建て

第7-024号



られた。



文HP

上賀茂に残る唯一の賀茂七 家であり、主家と書院から成 る。主家は上賀茂神社の鳥 居を越えない切妻造りの屋 根とし、書院は江戸時代に宮 中から御学問所を移築した との言い伝えがある。文景

かざりや認定

江戸時代創業の今宮神社

茶店。建物は築後450年位

といわれている。銀木犀や

紅葉で彩られる庭には「水

琴窟」がある。

第3-032号



第1-073号

第7-002号

一文字屋和輔 認定

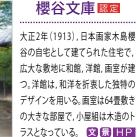
長保2年(1000)創業の今 宮神社の門前であぶり餅 を売る茶店。建物は,古い もので約400年前と伝え られている。敷地の北西角 に庭がある。 景

第1-001号

岩井家認定

雲ヶ畑に現存する江戸時代 末期の建築で,木造入母屋 造の主屋は,室内はいろり のすす跡で黒光り、大黒柱、 おくどさん,太い梁,伏見人 形のほていさん等, 当時の 雰囲気がそのまま残る。文

第5-018号





第1-003号

紙屋川庭園 認定

かつて西陣の織屋さんが 日本や世界の人々の散策や 交流を通じて,古代より続く 日本の美の発信地にする との思いで造り続けられた と言われる素敵な庭。

ホームページにも掲載しています □□□ http://kyoto-irodoru.com/



旧北山丸太会社倉庫認定

磨き丸太の加工・乾燥・保 管に用いられてきた。二 階・中三階・三階を組み合 わせた独特の外観。磨き 丸太の天然乾燥のための テラスが珍しい。





第8-050号

旧藤ノ森湯配定

昭和5年(1930)に銭湯と して開業。外観正面の腰 壁や浴室にマジョリカ風 タイルが使われているの が特徴。銭湯は廃業し,現 在はカフェとして活用され ている。



醛田家認定

昭和11年(1936)に建築された木 造2階建の数寄屋風住宅。中廊下 を挟み接客空間と日常生活空間 に分かれる平面形式で,通り側に は洋風応接間も備える。玄関への アプローチには, 蹲居や織部灯 籠を用いた庭が設けられている。

第6-031号





第8-004号

日下部式部家認定

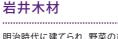
小野郷の北山型民家。明 和9年(1772)に建てられ た。小野郷は古来より天皇 家の御料地で,室内には献 上品を整えるための金物 や饗応のための丸炉(がん ろ) などがある。 文



第2-002号

紫明会館認定

外観は平滑な意匠である がスパニッシュを基調とし たデザイン。建築後大きな 改変は行われておらず,戦 前の雰囲気をそのまま残 している。



明治時代に建てられ,野菜の市場として使用されてい た京町家。室内は外観から想像できない大空間が広 がっており、現在は磨き丸太販売促進のためのショー ルームとして使われている。



第7-001号

岩戸落葉神社

NEW

NEW

植松家

小野郷の神社。巨大な岩の前に岩戸社(小野上村の氏 神)と落葉社(小野下村の氏神)が祀られている。境内に は4本のイチョウの大木が立ち,紅葉が美しい。

加茂街道の近くに建つ近代和風住宅。主屋,洋館,蔵など

が建つが,道路からは高塀に隠されている。庭は桜や楓な

どが植えられ,主屋や洋館などから眺めることができる。随

筆家 岡部伊都子が暮らし,執筆活動を行った住宅である。



第8-002号

聖ヨゼフ修道院 門の家認定

門は煉瓦造,門番小屋は煉 瓦壁と木造部が特徴的で あり,中世的な意匠を持つ ている。全く老朽化を感じ させない堅固な建物で,周 囲の歴史的な景観を醸し 出している。 文

第4-001号

NEW



第7-004号

高田家(博真社) 認定

文

昭和6年(1931)に建てられ た住宅で,北側は洋館,南側 は和風,地下には遊戯場が ある。和洋の空間ともに上 質で,家具,備品,壁紙,襖な どは,建築当時に近い状態 で保存されている。 文景

上田家

NEW

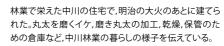
残っている。

京見峠茶家

中川地域に2軒ある茅葺住宅の1軒で、明治よりも古い時 代の建築。枝垂桜等の花々が植えられていた庭には、台杉 が植えられ北山らしい風情がある。明治の大火でも焼失 せず,維持管理がよくなされ,昔の面影を漂わせている。



NEW 旧森菅家





第8-003号



第1-006号

速水 滌源居 🐯

春は奥庭の桜,初夏はもみ じの新緑とみずみずしい 青苔,秋は燃えるような紅 葉,冬は静寂の中の雪景色 として四季折々,様々な面 を露地・庭が見せてくれる。

景HP

船岡温泉認定

地元だけでなく観光客に も人気の銭湯。大正12年 (1923)に開業し,開業当 初は,料理旅館船岡楼と, その附属施設として,船 岡温泉,理髪店が建てら れた。

第8-051号

久保家

た和の意匠が用いられている。

鴨川の源流の山里,雲ケ畑に建つ築100年を超える民 家。周囲の山々と建物が一つの風景となっており、たな びく煙は懐かしい暮らしを思わせる。

昭和39年(1964), 増田友也設計により建てられた住

宅。外観はピロティや打ち放しコンクリートの壁面など

西の鯖街道沿いに建つ。江戸時代には旅籠だった。昭

和30年(1955)頃に茶屋を開業したが数年前に閉店。

室内には、おくどさん、古文書、民芸品など貴重な品々が



第6-001号

第8-030号

高桐院

慶長年間(1596~1615),細川忠興(三斎)が父である 藤孝の菩提を弔うため創建された大徳寺の塔頭寺院。 方丈や客殿,周囲を紅葉の疎林で埋める庭園等は,三 斎の人となりや言い伝えが寺内各所に残されている。

庭園は料亭の和風建築の横を流れる小川, 樹木の茂

みや苔むした斜面から造られている。台杉の庭や、紅

葉の季節には両岸から覆いかぶさるように染まる紅



第1-004号

NEW



第8-052号

西川家認定 金閣寺の近くに建つ木造2階

建ての住宅。外観は,水平線 を強調した深い軒や丸窓な ど,モダニズムのデザインで ある。室内は和室と洋室がバ ランスよく配置されており,現 代の生活にも適している。 🔯

第1-008号

松野醤油本店認定

創業は文化2年(1805)。 醤油醸造場だけでなく, 住まいも兼ねており,南面 に庭を配し、天井を高くし て, 涼しく暮らせる工夫が されている。

ル・コルビュジエを思わせるが、室内は襖や障子を用い 第7-003号

神光院

小林家

神光院は京都三大弘法のひとつとして知られる。本堂は 文政12年(1829)の建築である。明治の廃仏毀釈により 一時廃寺となったが再興した。境内には,本堂,中興堂 のほか、太田垣蓮月が晩年を過ごした蓮月庵が残る。景



第4-021号

杉江家

葉が見もの。

しょうざん光悦芸術村

昭和2年(1927)に建替えられている。庭園の石や灯籠 は100年以上前のもの。石の中には、今では手に入ら ない鞍馬石等の貴重なものもある。



第1-005号

昭和10年(1935)頃に建築され

た住宅建築。表門, 主屋, 離れ, 土 蔵からなる。主屋は庭に面して雁 行して建てられ,南東角に洋館を 設ける。数寄屋, 洋風, 寺院建築 風の意匠を用いた,施主の趣味 が感じられる建物である。 文

岐美家認定

第6-030号

本野精吾自邸認定 モダニズム建築の先駆として知ら

れる本野精吾氏の自邸。中村鎮式 コンクリートブロックを採用した 本野氏作品の最初の住宅である。 コンクリートブロックをむき出し にした外観や玄関,門に使用され ている煉瓦が印象的である。

第4-022号

宗蓮寺

北山杉や紅葉の木に囲まれた山寺。台杉の庭園があり その根元には山地に生息する野草が花を咲かせる。書 院から眺める北山杉の借景には心が癒される。



第2-003号

NEW 重山文庫(旧新村家)

広辞苑を編纂した新村出(しんむらいずる)の旧宅。木 戸孝允別邸の一部を移築した建物で,明治初期の趣を 残す。現在は重山文庫として、奥座敷などが公開されて いる。



中川八幡宮社

室町以前に創建され、大火により焼失も明治28年 (1895)に再建。境内にある白杉は推定500年を数え られる。山の傾斜地に建ち、鎮守の杜として山の神々を 祀ったという由緒にふさわしい趣を持っている。



第2-048号

中田林業倉庫

戦前に建てられた。川に面しており、磨き丸太の加工 場と倉庫として使われてきた。母家も同じ敷地にあり、 職住近接となっている。北区役所主催の市民コンテス トで第一位となった写真が清滝川とこの倉庫である。



第2-049号

NEW

日本福音ルーテル賀茂川教会

ヴォーリズが設計した教会で,昭和29年(1954)に建て られた。礼拝堂は祭壇上部のアーチが印象的で,木の 小屋組,白い壁,木の腰壁で囲まれた温かみのある空 間である。



第8-026号

NEW 柊湯

柊野の銭湯。開店から50年以上になる。タイルに描か れた浴室の絵が美しい。現在,このようなタイル絵をつ くる職人がいなくなっており、貴重である。



NEW

平野の家 わざ 永々棟

大正から昭和に活躍した日本画家 山下竹斎の邸宅兼アトリエ として,大正15年(1926)に建てられた木造の建物。近年,数寄 屋大工による保存修理工事が行われ,現在は,茶道教室,いけ ばな教室,講演会,コンサートの会場として活用されている。



NEW 福田家

区画整理事業で生まれた小山に建つ近代洋風住宅。煉 瓦の門や塀,赤い屋根瓦,クリーム色の外壁が目を引く。 アーチ窓,玄関ポーチなどのデザインが凝っている。



第8-005号

NEW

藤井家

昭和7年(1932)に建てられた住宅。東棟と西棟がつな がっており、東棟西棟の1階2階それぞれに座敷があ る。庭は石組で高低差をつけ、多様な植栽が植えられ ている。



藤本家

中川地域で最も古い民家の一つ。玄関脇には,中川地 域では珍しいバッタリ床几が備えられる。周りにある 苔むした路地, 古い木造倉庫, 石垣に埋め込まれた地 蔵等と調和して美しい景観を醸し出している。



松野家

約200年前に建築。40年程前の新聞に「典型的な武家 屋敷」として取りあげられた。敷地内には、「茶屋四郎 次郎邸跡」の石碑がある。



第1-007号

まくもと 椋本家

茅葺にトタンを被せた屋根の住宅で,明治期以前の築。 付属の小屋は磨き丸太の加工と作業道具や薪などを保 管するために使われてきた。住宅と小屋が良く調和し て、北山地域の昔の生活様式や風情をよく残している。



第2-050号

森勘商店倉庫

昭和4年(1929)建築の2階建倉庫。1階の妻側は庇が 大きく出ており磨き加工を行う作業場となっている。ま た、2階の天井はなく長尺の丸太を立てかけられるよう にしている。風情のある景観になっている。



第2-051号

森久商店倉庫

昭和11年(1936)建築の北山杉を磨き加工し,自然乾 燥させ,販売まで保管する倉庫。周りの木造倉庫群と調 和して美しい景観を作っており、磨き丸太生産の全盛 時代を髣髴とさせる建物である。



第2-052号

山治林業倉庫

中川地域の2階建て倉庫の中で、最も棟が高く、大型の 建物。内部は尺長の丸太を立てかけられるように多様 な高さが確保されている。2階にはテラスが設けられ, 磨き丸太の乾燥場として利用されてきた。



吉水庵 銅閣

旅館にあった茅葺の茶屋を,地元の大工,左官の尽力に より移築した建物である。後代の改修と思われる箇所は 古式に戻し、茅葺屋根を取り払い、代わりに数寄屋造の 三層目を設け、唐破風、鳳凰を据えている。



笙3-001号

上京区



第6-002号

北村美術館 四君子苑認定

今原町家認定

住居兼組紐製作場として昭和4年

(1929)に建築された表屋造の

町家。内外に町家の特徴を残し

2階には洋館風の部屋が配され

ている。町家や生活文化の継承

のため,住まいながら飲食店やイ

ベントに活用されている。HP

数寄屋造の名工北村捨次郎により 昭和19年(1944)に建築。進駐軍の 接収後,住宅棟はモダニズム要素を 含んだ近代の数寄屋として改築され た。庭は多彩な石造品を配し,比叡 山・如意ヶ岳を望めるなど趣向に富 んだものとなっている。 文 HP

第6-003号

大市認定

元禄年間(1688~1704)創 業のすっぽん料理店。330年 前の建物がそのまま残り、玄 関には刀傷や槍の痕がある。 帳場の結界などもあり、志賀 直哉の暗夜行路など多数の 小説に登場している。 HP

富田屋 田中家 認定

6つの坪庭, 2つの井戸, 3

つの蔵から構成された町

家。表屋造りには商売をし

ながら暮らす知恵が感じら

れる。住むための行事やし

きたりをこなせるように作

られている。 文景 HP

萬亀楼區定

享保7年(1722)に造り酒

屋を創業。安永9年(1780)

に茶店を営み料理を供す

るようになる。主屋は明治

5年(1872)の建築。お部屋

に生ける茶花は敷地内で

景HP

育てている。

第2-054号

第2-004号



第1-015号

有斐斎 弘道館 國定 江戸中後期の京都を代表 する儒者,皆川淇園が創 立した学問所「弘道館」の 址地とされる敷地に建て られた数寄屋建築。庭は 南北にあり、茶庭として使

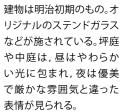
われている。 第1-016号

第7-025号

今宮神社 御旅所認定

三基の御神輿を鎮座する 御旅所。現在の建物は,天 明の大火(1788)で焼失し た後,寛政期(1789~1801) に再建。能舞台では昭和40 年代まで今宮御旅能が奉 納されていた。 文 HP

静家認定



第1-013号

大聖寺國定



第7-027号

宝鏡寺認定



第7-028号

応安年間(1368~75)に, 光厳天皇皇女 華林宮惠 厳禅尼が開山した尼門跡 寺院で,人形寺の名で有 名。春と秋に人形展が開か れ,年に一度,人形供養を 行なっている。 文 HP

山本家(仁風庵) 認定

昭和15年(1940)頃に建て

られた近代和風住宅。施

主の山本仁三郎は,岐阜

で白生地商を営み,大正9

年(1920),京都に店舗を

文景



第8-053号

第5-022号

湯本家認定

構えた。



ある。歴史学者湯本文彦が 終の住家としたことから 同人に関する研究資料等 が多く残されている。

明治期の建築と推定され

る平家建ての木造建物で

HP

NEW

NEW

和幸庵

昭和28年(1953)以前に福徳銀行創設者が材木商から 買い取った約190坪の邸宅で、能楽や茶道・華道などの 伝統文化を楽しむ活動の拠点となっている。





第5-020号

朝日玉姫鵺大明神社

平安時代末期の武将源頼政が鵺という怪鳥を射落とし その射落とされた鵺を祀った神社。主税五ヶ町が協同で 管理されており、社を中心に形成されている同町のコミュ ニティのあり方を後世に伝え残すことも含め大切である。



第5-021号

NEW

大正14年(1925),藤井厚二が設計した木造2階建ての 住宅。保存状態が良く,藤井の住宅に対する設計思想を 見ることがでる。藤井厚二が設計した住宅で現存する数 少ないもののひとつ。





第8-034号

岩上ホール

昭和30年(1955)頃に建築。織工場を改装した落ち着



上木家

表の格子のたたずまいは,昭和初期の典型的な西陣 の商家に見えるが,壁紙の裏紙に使われた新聞紙か ら明治期の建築とも推測される。以前は糸商として使 われていた。



第1-074号

NEW 法輪寺

文殊院

だるま寺の名で親しまれているお寺。臨済宗妙心寺派 で,享保12年(1727)に創建された。だるま堂には,奉納 されただるま八千体余りが並んでいる。二月の節分には 多くの参拝者で賑わう。

安土桃山時代の絵師 海北友松(かいほうゆうしょう)とその

嫡子である海北友雪(かいほうゆうせつ)ゆかりの町家。江戸

時代から明治時代まで,京都の禁裏で御用を務める絵師の

家として存続した。現在の町家は明治時代に建てられた。



第8-008号

be京都

宮岡家

空き家から貸しギャラリー兼イベントスペースとして再生さ れ、「美しい"美"の京都がここにある」という思いをこめ命名 された。江戸期からの歴史を持つ京町家であり、隣接する寺 院の山門と連続した良好な景観を形成している。

外観に大幅な改変がなされていたものから,近年,復原 工事が行われ,外観や火袋を復元するなど内装に関し

ても,京町家としての風情を取り戻した。間口5間の大き

さから地域の景観に寄与している。



第4-004号

いた木造の建物。どこか懐かしい外観が,石畳のまちな みと見事に調和している。

太田家(旧太田喜二郎アトリエ)

大正13年(1924), 洋画家太田喜二郎の住宅として建

てられた。設計は藤井厚二。アトリエは太田自身の設計

で、光の取り入れ方に画家のこだわりがうかがえる。居

間やアトリエは建築当時のままである。



第7-005号

織成館

京都を代表する町家が現存する西陣大黒町の中心的 な存在。店の間,前の坪庭,住居そして倉と,昭和初期 の代表的な建物。



第1-010号

承応3年(1654)に伊勢暦の暦師だった浅井長政の末裔が,京都 に移建した真言宗醍醐派の寺院。蔀戸が連なる本堂や庫裏は築 150年以上と推定される。風格のある門構えや松の緑の外観,地 域の集まりにも使われる庫裏が、地元の人々に親しまれている。



第5-023号

横山家

西陣に建つ大型の京町家で,明治時代に建てられたと 伝わる。建築当時の姿をよく残しており、景観に重要な 役割を果たしている。内部の保存状態もよく、火袋の小 屋組みも美しい。



第7-008号

織成宿所

昭和初期,織屋で財をなした渡邉文七が隠居仕事とし て,一町内全て借家を建て,借家町が誕生。その中の一つ で,会員制の宿泊施設として使われている。



織成宿所 上七軒

日本のお茶屋発祥の地である上七軒で廃業された バー形式のお茶屋さんを隠れ家的に使用。さすが上七 軒と呼ばれるに相応しい貫禄がある。



若山家

間口が広く表蔵があり、虫籠窓、柱横には格式ある家 のみ付けるものとの言い伝えがある「笄(こうがい)」 が取り付けてある。氏神の祭禮には家を開放して町内 の祭道具の飾り場所となるなど風格が感じられる。







NEW

勝間家

烏丸通沿いに建つ近代和風建築の住宅。昭和元年 (1926)頃に建てられ,烏丸通に高塀と建物が並び,ミ セニワ,ツボニワ,ザシキニワを持つ。座敷は書院造りだ が,床柱に磨き丸太を使い,柔らかさを生んでいる。 景



第7-026号

NEW 上七軒 長谷川家

上七軒のお茶屋だったが,近年はお茶会や落語会に使 用されている。離れの座敷は広く、奥には茶室と土蔵が あり,裏庭にはお火焚きさんの祠がある。



第8-007号

慈照院

相国寺の塔頭で、桂宮家の学問所として建築された書 院(棲碧軒),千宗旦によって作られた茶室(頤神室)や 樹齢300年を超える陸船松と称されるクロマツが植わ る枯山水式庭園が配されている。

ゑんま堂は,厨子虹梁絵様から17世紀に建立されたと考えら

れる。近年の火災で、屋根と天井を焼失するが、残された閻魔

王とその脇侍をまつる厨子が他にはない迫力を見せる。境内

には重要文化財の石造十重塔等の文化財がある。



第4-002号

大根屋

くとられている。

水火天満宮

都の水害と火災を鎮めるため,醍醐天皇の勅願で,水火 社天神天満宮として延長元年(923)に建立された日本 最初の天満宮。昭和25年(1950),堀川道路拡幅の際に 現在の地に移転した。

京都の町並みを作っている格子を始め,種々な要素を

多く持っている建物。外観を残しながら、西陣の工場と

して内部は織機が置けるように高い空間と柱の間は広



第8-035号

左京区



青山家認定 京都大学名誉教授である 青山秀夫とその教え子達 の思い出の建物と庭。庭 の池には川から水が流れ 込み,建物と共に風流で歴 史的な面持ちがある。

第1-017号

第8-009号

陶芸家の上田恒次が設計 した自邸。昭和12年(1937) に陶房を建て,昭和17年 (1942)ごろ住居部分を増

上田恒次家認定

築。民藝運動の場となった 陶芸家の製作と生活の空 間を伝えている。

大将軍八神社

千本ゑんま堂・引接寺

北野天満宮の南に建つ神社で,本殿は昭和3年に建て られた。本殿と拝殿は一体となっており、背面に縋破風 がつく。洗練された意匠で、特に錺金具は見事である。



HP

バザール・カフェ

大正8年(1919),キリスト教宣教師の住宅として建てら れた。設計はヴォーリズで、現在はカフェである。オープ ンデッキのある庭,室内の暖炉など,建物と食事を楽し める癒やしの場である。 HP



第1-076号

大野家認定 本二階建て, 瓦葺きで, 高塀を

持つ大正末期から昭和初期 の建物である。京都パラダイ ス遊園地の跡地であるこの界 隈は,同時代に建てられた建 物が多く残り,通りの景観は往 時の様子を留めている。 景

NEW

小川家 認定 左京区鹿ヶ谷に建つ2階建ての 近代洋風住宅。大正11年(1922) に建てられた。設計は武田五一。 わが国の鉄筋コンクリート造住 宅のさきがけである。武田五一 が設計した数少ない現存する 住宅として貴重である。

第8-010号

第5-025号



杜若家認定

約280年の歴史を刻む茅 葺の民家。建物南側の庭 には,第55代文徳天皇の 第一皇子,惟喬親王のお 手植えと伝えられている杜 若が咲いている。





第1-018号

川端彌之助 アトリエ 認定

洋画家である川端彌之助 (1893~1981) のアトリエ として大正14年(1925)に 建築。愛用のイーゼルや書 籍がそのまま残され, 当時 の様子を今に伝えている。

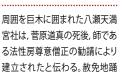




NEW

第6-007号

第3-009号



りでは,女装した男性が切子燈

籠を頭に載せ,境内の秋元神社

に向かう行列が見られる。

八瀬天満宮社 認定



第8-012号

旧喜多家認定

藤井厚二が設計した住宅 で,第4回実験住宅の工後 の大正15年(1926)に設計 された。外部は,屋根,軒, 庇がリズミカルで,室内は 明るすぎず落ち着いた雰 囲気である。 文

第8-013号

旧建部 歯科医院認定

増田友也が設計した鉄筋 コンクリート造の診療所 兼住宅。昭和28年(1953) に建てられた。小規模な建 物にモダニズムの合理性 と増田の感性が融合して



第3-036号

八瀬比叡山口駅 認定

平岡家家

昭和9年(1934)の建築で、モダ

ンな外観を持つ建物内部は

庭の見える座敷や洋間の応接

室を備えるなど、和洋折衷の造

りとなっている。台所には、当

時からの備え付けの食器棚や

カウンターキッチンが残る。

古風な印象を見せる駅舎 は, 開業時から形を変えず 約90年間にわたり利用者 を見送ってきた。ホームを 覆う木造屋根が魅力的であ り,波型の軒飾りはホーム のアクセントとなっている。



第1-024号

山ばな平八茶屋認定

約200年以上経つ母屋は 商家造りで,庭は昭和初期 の造り。陰陽を配置した庭 は,四季折々の花がその 庭を満たし,季節を存分に 感じることが出来る。

景HP

第3-035号

鞍馬駅認定

開業当時からの建物で,重層 な入母屋形式の和風屋根が 背景の山並みに溶け込む風景 は,清々しく感じる。また,白壁 も印象的で待合室には古典的 な趣のある照明があるなど、木 造の温もりが感じられる。

ケーブル八瀬駅 認定

洛北の開発と比叡山への 登山を目的として、大正14年 (1925) に開業した。かつて, 西塔橋駅と呼ばれていたこの 駅舎には,鉄骨トラス造や妻 飾りなど開業当初の意匠が 残っており貴重である。HP

第5-001号



第1-025号

湯川秀樹旧宅認定

晩年までこよなく庭を愛で た湯川秀樹(1907~1981) が,昭和24年(1949)に日 本人初のノーベル物理学 賞を受賞し、最期まで過ご した場所。



第1-026号

吉田山荘認定

昭和7年(1932)東伏見宮 家別邸として建造。重厚感 あふれる総桧造りと裏菊紋 の格調が織なす和と洋が 融合した料理旅館。京都の 四季を感じられる庭園を眺 めることができる。文 HP

第6-005号

駒井家 認定

昭和2年(1927)に建てられた、米 国人建築家ウィリアム・メレル・ ヴォーリズ設計の住宅。建物はス パニッシュ様式で,赤茶色の瓦屋 根とスタッコ壁が用いられ,アー チ型の窓, テラス, パーゴラが外 観に彩りを添えている。文 HP

第1-019号

十一屋 岡村家 認定

十一屋は近年まで鯰料理 の専門店として営業。建物 は新田街道(今は,鯖街道 と命名) に面しており, 旧 街道のランドマーク的な 存在。

昭和元年(1926),京都パラダイス跡の分譲地に建てら

れた洋館の住宅。この地域には珍しい洋館で、現在も素

昭和32年(1957)に建築された木造2階建の住宅建築。

村野・森建築事務所の設計とされ、大和棟に似た大き

な屋根が特徴。2階客間には創作的なつくりの床の間

第4-006号

吉村家(松雲荘) 認定

眺望を活かした続き和室と洋風に仕 上げられた家族室・食堂がある木造 2階建ての住宅である。伝統建築を継 承しつつ生活の洋風化を試み,住宅 改良運動の傾向と郊外に住宅地が形 成され始めた昭和初期の傾向も読み 取ることが出来る建物である。



第5-003号

霊鑑寺認定

書院,本堂の南面に広がる池 泉鑑賞式の庭園は,東山連峰 の大文字山より西に延びる稜 線を利用して造られている。 椿の季節には,散椿,日光,紅 八重侘助など銘種約30種の 花が庭園をうずめている。



第5-027号

聖護院認定

寬治4年(1090)白河上皇 の勅により創建。天明の大 火の際, 光格天皇の仮御 所となった。狩野派の障壁 画, 重要文化財の書院, 庭 の砂紋など目を引きつけ 文HP

第2-007号

第1-020号

真澄寺別院 流響院 認定

大正2年(1913)に竣工。数 寄屋建築と露地や表庭, 芝庭などの複数の要素が 組み込まれた自然感ある 庭園は,近代別荘庭園の 特徴を良く表している。

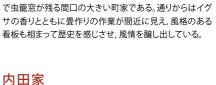
HP







第8-039号



創業明治3年(1870)の畳店である。昭和2年(1927)の建物

北白川の志賀越道に建つ住宅。白川石, 花の栽培など

の産業で栄えた歴史と文化のある地域である。表に蔵

を構え,表側の深い庇,街道から控えた部分に建つ主

屋は、北白川の重要な住宅のひとつと考えられる。

井ノ口畳店



第7-009号

南禅寺順正認定

天保10年(1839)に蘭学医と して著名な新宮涼庭によって 開設された医学校のあった地 である。敷地中央の書院や石 門は,往事そのままに残る貴 重な建物で,庭園も昔の様相 をよく留めている。 文 HP





西川家原

大正期の遊園地 京都パラダイ スの跡地に,昭和2年(1927)に 建てられた住宅。別邸として建 てられ、後に本邸となった。仏間 は数寄屋風,応接室は和洋折衷 で,数寄屋風の近代和風住宅に 洋風意匠が加えられている。 🔯

内田家

が残る。

NEW

井口家

岩井家

敵な姿を見せている。

北白川の志賀越道に建つ住宅で,街道から控えて建てら れる。道に面した庭は、石工の作業や、花売りの場として 使われたようである。石工,白川女,街道をゆく人々など, にぎわっていた頃を伝える北白川の重要な住宅である。



第6-032号

第7-010号

永楽庵

大正天皇の皇后が発注された茶室正副二棟のうち, 副棟が彦根 の西田邸に払い下げられ、昭和25年(1950)頃にこの地に移され たものと伝わる。庭は茶室や離れ等の移築を指揮した当主の父 の設計で,建築群と一体で高野川河畔の景観を形成している。



第3-002号

夷川発電所

琵琶湖疏水の水を利用する発電所。大正3年(1914)完 成した建物は煉瓦造平屋建てで,小規模な建物ながら, 窓のアーチや入口両脇の装飾など,丁寧にデザインさ れている。



第8-038号

大槻家

志賀越道に建つ町家で、間口4間半の主屋と2つの 蔵, 庭,離れからなり,軒裏は防火のため,漆喰で塗りこ められている。大槻家は白川石を扱う石工であった。石 工業で賑わった界隈の面影を伝える。 景



第6-033号

第6-006号

竹中家

「水車の竹中」と呼ばれ,地域のランドマーク的存在の 精麦工場であった。母屋と工場の一部と石組の水路が 残る。前の小路とともに白川の景観をつくる。



第2-008号

大野家

明治期に建てられた木造洋館建ての表屋を持つ建物で、 奥には和館が建つ。著名な画家のアトリエとして活用さ れていたという伝承もあり、岡崎エリアの近代化の歴史を 伝える重要な景観要素の一つである。



第5-026号

NEW 小川家別邸

小川為次郎の妻の小川むらが,為次郎の死後,ひとりで 住むため昭和9年(1934)に建てられた住宅。設計は藤 井厚二,大工は北村伝兵衛など,小川むらが一流の人を 集めた。



第8-011号

玉川家

太平治家

つの蔵がある。

蔵には5月に行われる八瀬祭の衣装を収める。祭の役を引き受 けるためには、道具だけでなく神棚などの空間が必要で、大事 に引き継いでいる。主屋は明治6年(1873)に亡くなった当時の 主人が建てたと伝わる。水田越しに見える白壁は見事である。

「太平治」を屋号とする石工の歴史を持つ建物。天保元

年(1830)の地震後に再建されたと考えられる主屋奥

には, 江戸末期や明治初期の大火を免れたと伝わる二



第3-005号

NEW

大工で工芸作家でもある大濱浄竿(じょうかん)が昭和43 年(1968),25歳の頃に建てたと伝わる住宅。彼が日本で 建てた2軒のうちの1軒で,独特な室内空間を持つ。彼の 工芸作品数点はブルックリン美術館に収蔵されている。



第7-034号

大八木家

大正の末期に建てられ約90年の歴史がある。庭園と茶 室は当時のままで,茶室から見る庭園の枝垂れ桜は-幅の絵のようである。



第2-006号

NEW

銀閣寺の近くに建つそば屋。現在の店主は三代目であ る。白川通と今出川通の交差点から、銀閣寺に向かっ て疏水沿いに歩くと左手に見える,外観に特徴のある 建物。



第8-040号

野仏庵

数寄者上田堪庵が由緒ある住宅や茶室を移築したも ので、移築の際に堪庵の好みに改修されている。淀か ら移築した主屋,茶室「雨月」,「陶庵」,「堪庵」,「幽扉 亭」など、多くの建物が並んでいる。



第7-011号

NEW 早川家

昭和7年(1932)に建てられた木造2階建ての住宅。土壁,しっ くい壁,木製建具,畳など,自然素材の集合体で,心身ともに元 気で穏やかに過ごすことができ、静かな感動を味わうことが できる。京都の気候風土にあったすばらしい住環境である。



第8-015号

北白川天神宮

境内は志賀越道沿いの山の中で,本殿と拝殿は山頂付 近に建つ。参道は白川に架かる石橋を渡り、山頂へと続 く。石橋は白川の石工が手がけたもの。鬱蒼とした森を 貫く階段は苔むしており、厳かな雰囲気を漂わせている。



北白川天神宮御旅所

北白川天神宮の斜め向かいに建つ。志賀越道に面して 広場があり、奥に建物が建つ。建物の外壁や軒裏は漆喰 となっている。この地域は、幾度も大きな火災があった ため,火災に強い建物になったと伝わる。



元禄14年(1701)に創業し、代々医師と薬の処方を兼業さ れていて、明治に入って和漢薬専門店となった。通りに面 して間口が広く、虫籠窓のある歴史を感じさせる佇まい で,引き戸を開けると,薬草の香りが鼻をくすぐる。 HP



400年余り前, 小さな腰掛茶屋として開業し, 天保8年 (1837)から料理屋に。建物はくずやと呼ばれる茅葺 き屋根の座敷で,庭園は植熊作。





昭和14年(1939)に城守保養所新館として建てられた。精神病 患者が滞在した部屋は床の間付の座敷で、庭にも自由に出られ た。岩倉には家族の付き添いなしに預かった歴史があり、「地域 において精神障害者を看護する」ことにヒントを与えてくれる。



第3-003号

NEW 栗原家

大正期に建てられたと思われる近代数寄屋。座敷を中 心とした間取りから、居宅ではなく、接客のために建てら れたと考えられる。



第8-042号

本家西尾八ツ橋別邸

創業は元禄2年(1689)。家屋は築約100年。数寄屋建 築の座敷・茶室がそのまま残っている。庭は四季折々の 顔を見せてくれる。





第1-022号

NEW 宝泉院

勝林院の僧坊として長和2年(1013)に創建された。書 院は江戸中期頃に建てられた。方丈と庫裏まわりの庭 園,水琴窟,京都市登録天然記念物の五葉松が見どころ HP である。



NEW

蹴上発電所

日本初の一般供給水力発電所。琵琶湖疏水の水を利用 している。蹴上のランドマークである赤煉瓦の建物は明 治45年(1912)に建てられた。貴重な近代化遺産である。



第8-037号

NEW ケルガード家

明治37年(1904),大型林業家の邸宅として建てられた 邸宅。花背原地町に建ち、杉や桧を多用している。現在 は外国人向けの宿泊施設として活用されている。

2階建ての町家で、10年程前に改修され、店舗となっている。通

りから窓越しに窺える店内には、オリジナルデザインの洋服や

古布の小物等が置かれている。法然院の周辺の落ち着いた雰

囲気の中で,両隣の町家と一体となって町並みを形作っている。



第8-014号

笙3-006号

NEW 松田家

妙伝寺

彫刻家松田尚之のアトリエ兼自邸。松田自身が設計し昭 和11年(1936)に建てられた。アトリエは死の直前まで厳 しい研鑽を重ねた場で,現在は音楽ホールとして活用 されている。

江戸時代初期, 覚法妙伝和尚の開創によるものとされて

いる。本尊には如意輪観音菩薩が安置された八瀬童子の

菩提寺である。毎月執り行う念仏講では後醍醐天皇,近衛

基熙, 秋元喬知の他, 歴代の八瀬恩人を供養している。



第8-016号

第5-002号

三上家

八瀬かまぶろ

北白川の志賀越道に建つ住宅。近くの北白川天満宮, 隣の北白川天満宮の御旅所とならび,この地域の景観 を形成する建物のひとつである。

壬申の乱で大海人皇子が背中に矢を受け、かまぶろで傷を癒し

た伝説が八瀬の地名の由来と言われる。かまぶろは外側が土壁、

内側が石組で、保温性に優れた造り。江戸時代の16基が、1基の

み現存。見た目にも愛嬌があり、人々からも親しまれている。



第7-012号

笙3-008号

NEW

小林家(旧古川家)

北白川の疏水沿いに建つ鉄筋コンクリート造2階建の 住宅。昭和31年(1956)に建てられた。設計は増田友也 で,コンクリート打ち放しが特徴である。

元禄2年(1689)にこの地で創業した。近世筝曲の開祖といわれる

八橋検校が葬られた黒谷金戒光明寺の参道に茶店を設け, 検校の

遺徳を偲び、琴の形を象った干菓子を「八ッ橋」と名付け販売した

のが始まりと言われている。明治には多くの文豪が訪れた。

聖護院八ツ橋総本店 本店



第8-041号

第3-004号

NEW

南北朝時代に尼崎で開山,昭和7年(1932)に現在の地に移転した 禅宗寺院。実業家山口玄洞が寄進し、元京都府技師安井楢次郎の設 計による近代和風の寺院である。境内には、本堂、観音堂、鳳凰閣、鐘 楼,茶室などが建ち,全体に中世の寺院に範をとった意匠である。



八瀬童子会宝庫

八瀬童子は,皇族・公家等ともつながりが深く,明治以降は政府 から天皇大礼・大喪の駕輿丁に任じられた。綸旨や京都所司代 の下知状等の八瀬童子会が所蔵する資料は,一部は重要文化 財に指定されており、保管していた本倉庫は八瀬の宝と言える。



南禅寺参道に面した純和風旅館。100年以上経った草庵 茶室に依った建物は、簡素枯淡な趣を持つ。敷地の3分 の1を占める庭園は,植冶(小川治兵衛)の作庭で四季 折々の風情が楽しめ,静寂な時へと誘う。 HP



第2-055号

明治末期に7代目小川治兵衛が作庭。庭園内には琵琶 湖を模した池があり、周囲には280年前に中国から伝 来したとされる画仙堂や茶室「渓猿亭」がある。



第1-027号

NEW 瑠璃光院

八瀬の広大な敷地につくられた数寄屋建築と庭園。大 正末から,数奇屋造りの建物と,背景の山林を借景とし た庭園がつくられた。紅葉が美しく、多くの人を集めて



第7-032号



銀細工の品々がミセノマに 並べられ,その奥では加工 作業が行われている。HP

第5-004号

第7-038号

(山茶花美術館) 認定 明治13年(1880)に建てら れた表屋造の京町家。1階

の格子と犬矢来,2階の虫

籠窓が特徴で,明治期の

商家の様子を伝えている。

現在は山茶花美術館とし

て使われている。 文景

中京区



第2-009号

青木家認定

暖炉やステンドグラスのあ る洋館が通りに面する,和 洋折衷の町家である。高塀 を巡らせた外観は新旧が 調和する界隈の街なみ整 備の模範となっている。

文景



第2-010号

第2-011号

岩崎家園定

明治初期建築の伝統的 な木造住宅。厨子2階建て で, 出格子, 虫籠窓が意匠 を彩り,加敷造の軒裏から も歴史を感じる。庭は「花 の庭」で四季折々の花が 楽しめる。



第7-016号

NISSHA本館 ®定

竹影堂

(かざりや鐐) 認定

金属工芸の老舗「竹影堂」

から生まれた錺細工の店

である。この町家には,若

手職人が作り出す,美しい

煉瓦造2階建ての洋館。明治39年 (1906), 工場の事務所として建 てられ,現在は印刷技術に関する 収蔵品や会社の歴史をたどる資料 を展示している。外観は連続した アーチ窓が並び,玄関にはコリン ト式オーダーを設ける。文 HP



第3-015号

速水家區定

大正2年(1913)の建築。現存する設計 図等からも、当時の様子を窺うことが できる。祇園祭の頃に襖を御簾や葦戸 に替え、網代を敷き、夏のしつらえにす ると, 坪庭から奥へと風が通り, 奥座敷 から打ち水した庭を見ると涼やかで, 心の安らぎが感じられる。 文景



第1-028号

上村家認定

上村松園(1875~1949) が大正3年(1914)に建築。 上村松篁(1902~2001) も制作活動をした日本画 家の住宅。大正期らしい様 相を残す,時代を代表する 住宅建築。

大江能楽堂國建

切妻屋根の舞台を中心 に、見所は2階建ての別棟 とし,舞台を矩折に取り巻 いている。明治後期に創 建された能楽堂の希少な 建築遺構である。



第1-031号

柊家 認定

文政元年(1818)創業の 旅館。麩屋町側の外観は 駒寄せと樹齢80年余りの ムベ,御池通り側は黒塀か らなり道行く人の目を楽し ませている。

景HP



第2-013号

藤井家園定

昭和8年(1933)建築の京 町家。その造りは,干し場, 検品場所等といった絞り 悉皆業としての仕事が効 率良く出来るような配置 になっている。

岡墨光堂 認定

生業である日本画の表装技術を生 かし, 絵画や書跡等の文化財修理 をされている。大正12年(1923)に 建替えられた建物で,経年の外観 の傷みを近年修復された。木造の 建物の風合いを生かしながら, 歴 史ある商売を続けている。 HP



がんこ高瀬川 二条苑認定

HP

HP

高瀬川の源流で,角倉了 以,山縣有朋とゆかりがあ る,七代目小川治兵衛作の 庭園。森鴎外の小説「高瀬 舟」の舞台にもなっている。

第1-029号

第1-032号

第8-017号

先斗町歌舞練場 國定

昭和2年(1927)3月に竣 工。花街先斗町で中心的 な役割を果たし,鴨川をど り・水明会が開催され,現 在もなお三条大橋袂の景 色をなしている。

第7-015号

昭和9年(1934)頃,呉服業を 営む寺江家によって建てられ た京町家。ハシリニワや火袋 を持つ構成は京町家と同じだ が, 西洋のモダンデザインを 取り入れている点に,新しいも のを取り入れる京都の町衆の

心意気が見られる。

本田家

(旧寺江家) 認定



彩雲堂園定

全国的にも有名な歴史のある日本画 の画材店で,鉄斎の看板が何よりの宝 物である。店舗入口にある4枚の建具 には施主の思いが強く, 近年の改修で は, 腰板部分を補強・化粧を施し残さ れた。銅製の樋も経年すれば生業に ふさわしい味わいが期待される。

炭屋認定





第7-036号

第2-057号

島津製作所創業記念 資料館 認定

島津製作所の創業者島津 源蔵の住宅として明治期 に建てられ,その後,約45 年にわたり本店として使わ れた。現在は島津製作所 の資料館として公開され ている。 文HP



俵屋 認定

宝永年間(1704~1711)に太物 問屋として創業。次第に宿を本業 とするようになり、江戸末期には、 様々な京都の地誌に「寄宿」とし て記載される。蛤御門の変(1864) で全焼したが、明治初年には旧館 が完成する。 文景 HP



家邊徳時計店壓定

三条通に建つ。煉瓦造2階 建ての店舗部分は明治23 年(1890)に建てられた。 店舗の奥には住居棟が建 つ。3連アーチが外観の特 徴で,現在はテナントとし て活用されている。









第2-056号

姉小路高倉の2軒長屋

木造総二階の2軒長屋。出格子, 尾垂れが特徴的で, 共 にかかる簾も含め, 往時の景観を伝えている。1戸は飲 食店として使用されており, 誰でも町家を感じられる建 物となっている。



第6-027号

雨森敬太郎薬房

江戸時代から続く伝承薬「無二膏」の老舗店である。風格ある庵看板を備え、黒壁に虫籠窓を持った意匠は、京都の薬種業としての歴史を伝えるとともに、地域の景観を形成している。



第4-023号

昭和4年(1929)築の町家である。元々八百屋を営まれていたミセノマの部分を貸し店舗用のスペースへと改修。町家の佇まいを残し、ミセノマは賃貸部分とする町



第4-026号

NEW こんかん 誉勘商の

誉勘商店は,呉服問屋が多い室町通の金襴製造卸商で,宝暦年間(1751~63)創業の老舗。創業時の建物は蛤御門の変(元治元年(1864))で焼失し,現在の建物は、明治9年(1877)に再建された。



第7-035号

市古家

正面に掲げる「山泉」の看板は、ソニー創立者の生家である盛田 合資会社の商標で、隣の「まるほ」醤油の看板と同じく、昭和12年 (1937)製で初代店主の独立時に贈られたものである。近年の改 修で側面を焼杉板貼りとし、落ち着いた雰囲気造りに工夫された。



第3-011号

井山家

元は生糸問屋をされていた現在の建物は、元治元年(1864)の京 焼後に即復興されたもので、一部改修されているが、駒寄・出格 子等は原形を留めている。蔵から見出だされた町式目は、平成版 「姉小路界隈町式目」としてまちづくりの基本理念となっている。



第3-012号

佐々木家

家再生の好例の一つとなっている。

小林家

昭和初期型と思われる外観で、表屋造り風の建物である。通りから見ると2階建だが、内部は3階建てで、階高が高く、1階、2階それぞれに本床のある座敷があり、当時の生活を偲ぶことができる建物である。



第4-008号

里村家

建物の側面に大工が長年保管していた上物の焼杉板を使用している。隣接がガレージであり、奥行が深いため目立っている。 ファサードは地味ではあるが上品な色調と仕上げに工夫がみられる。境界ブロックも漆喰風の美しさが表現されている。



第3-043号

岩野家

牛乳販売をされていた時の大型冷蔵庫とブルーの3枚のシャッターが残っていたが、1階に店舗用と居住用の2つの格子戸、2階窓にも面格子、壁の仕上げを変えることで、居住者の安心、景観、経済性を向上させ、壊さずに引き継がれた。



第3-037号

植田家

オリジナルにより近い形に修復された。出格子、漆喰の色、引き戸等に昔からの京町家のしつらえが残っている。室外機を覆う格子には、ナグリ加工が施された材が使われ、品の良い表情となっている。生業である生そばの老舗と共用している庭も美しい。



第3-038号

砂川家

先代から茶道具、書画・骨董品を商ってこられたためか、家の造りにお茶の精神が表れているように見える。飾窓が改修の際も移設して残される。その中に置かれるお茶花が、道行く人をさりげなくもてなし、先代からの精神を今に伝えている。



第3-044号

島津製作所旧本社

昭和2年(1927),島津製作所の社屋として建築された。武田五一が設計顧問をつとめ、ロマネスク風の柱頭、三角形のモチーフなどが特徴。昭和初期の都市景観を伝える建築である。



第6-035号

岡野家

外観や茶室をリニューアルされたが、玄関の敷石や井戸といった古きよきものは生かし続けていて、家へのこだわりを感じさせる。外観では虫籠窓とクーラー室外機の格子カバーが美しく映える。両側の建物とも調和している。



第3-039号

加納洋服店

大正期の町家の表屋を昭和2年(1927)に改修し,テーラーを始めた洋服店。パラペットを建ち上げ,3階建ての洋風建築に見せている。店舗は,作業のため,トップライトから自然光を取り入れている。



第6-034号

膳處漢ぽっちり

昭和10年(1935) に呉服店兼住居として建てられた。表屋造の町家の構成を踏襲し、およそ200坪の敷地に洋館、和風の居住棟、離れ、土蔵が建つ。現在は、中華料理店「膳處漢」と、バー「ぽっちり」として利用されている。



第7-013号

染殿院

「安産祈願のお地蔵さん」として名高い寺院である。建物は、どんどん焼けの際、仮堂として建てられたものと云われている。喧騒な通りから一歩境内に入ると厳かで静かな雰囲気を味わうことができる。



第5-006-

かまんざちょう ちょういえ 釜座町 町家

中規模で典型的な京町家である。町内会の持ち物として,会合や地蔵盆に使用されてきた。国内外の支援団体と連携して改修し,再生された。



第2-012号

亀末廣

文化元年(1804) 創業の老舗の菓子屋。建物は, 創業当初からの外観を残す総2階桟瓦葺の主屋と築100年以上の穀物用の蔵が姉小路側に建ち, その界隈の形成に重要な建物となっている。



第5-028号

谷口家

砂糖卸商を生業としていた仕舞屋の名残として、往時をしのぶ7 枚の表戸が特徴的である。夏季は格子枠だけのすこぶる風通し のいい表戸に入れ替える。平成18年(2006)に景観に配慮した改 修を行った。地蔵盆と姉小路行灯会では沢山の方々が集まる。



第3-014号

NEW 田畑家

昭和5年(1930)に建てられた総槍造の町家。和洋折衷のつくりで2階に洋間がある。坪庭は裏千家今日庵に出入りする造園業者 植熊によるものと伝わり,座敷を茶室としても使えるように坪庭から座敷に入ることができる。



第7-037号

菊岡家

運送業を生業とした先祖が江戸初期に作った漆喰の石室には、 家屋が消失した蛤御門の戦いの時にも、貴重品を入れたそうで ある。現主屋は明治20年(1887)頃に建てられた。第二次世界大 戦での延焼防止のため改修した袖壁、うだつ等が現存する。



第3-013号

旧石川家(和久傳堺町店)

木造平入総2階の間口が広い町家。腰壁に金属性のパイプ格子を備えた昭和初期の町家の特徴を備え、2階の虫籠窓や軒から簾がかかる外観は、姉小路界隈の景観の重要な要素となっている。



第6-008号

玉の湯

明治期に建てられた、市民に広く愛される歴史ある銭湯である。正面玄関のタイル張りの部分の奥には当時からの町家の部分が残っている。



第5-007号

鳥居家

化粧柱を採用してアクセントを強調している。玄関扉をアルミ戸から木製格子に交換したことで、開口幅を拡げて利便性を高め、同時に景観性も向上させた。更に銅製の樋を採用したことで高級感を高め、趣のある京町家に仕上がっている。



第3-045号

旧光仙洞(ババグーリ京都)

明治期の町家を飲食店として活用することで残すことを理念に、平成7年(1995)に改修された。改修にあたっては、民芸的な意匠とならないよう工夫され、内部は、町家の構造や特徴を活かした造りとなっている。 HP



第4-027号

旧本田商店(魏飯夷堂)

明治20年(1887)頃の建築で、元は西京白味噌醸造を営む店であったが、数年前に中華料理店として再生された。内部も当時の町家の面影が残されている。



第6-009号

日昇別荘

一の宮城主杉浦三郎兵衛が秀吉の命で居住。昭和24年 (1949)に日昇別荘として開業。茶室は、昭和初期のも ので、大工の手間が入って美しい。



第1-030

西村家

9年前に大正期の町家を現在の住環境に適した町家として改修された。外観は、古材を活用するなど町家の雰囲気を残しつつ、内部は、耐震、バリアフリー、断熱対策を講じたものとなっている。



第4-028-

久保田家

漆喰を塗り直し、戸袋や室外機格子力バーを設置等の改修を 行われた。角地に建つ間口の広い建物なので、寺町通りから 姉小路通りに入った折に、当家が見えてくると、建築協定を結 び、改修も進めてきた姉小路の町並みの始まりが感じられる。



熊谷道具處

明治期に建てられた虫籠窓と達筆な看板を持つ店舗型の町家である。店内は、創業当時と同様、茶道具類や古美術品が多数並べられ、地域の景観を形成している。



第5-005号

百芳軒

明治初期に蚕糸問屋として建てられた典型的な京町 家スタイルを残している。マンション開発が進む立地 にある中、京町家の意匠を後世に残すだけでなく、地 域コミュニティ活性化の拠点として開放されている。



庚亡

昭和2年(1927)に建てられた京町家。道路に面して洋館が建ち、奥に和風の居住空間や庭が続いている。建築当時の様子を伝える外観は、通りの良好な景観形成に寄与している。



第7-014号

福井畳店

創業100年以上の老舗の畳店。木造2階建て平入りの 建物で、表通りに面した1階の土間が作業場となってお り,店主の手作り作業が見られ,高倉通りの風情となっ ている。



第4-025号

前田家

明治29年(1896)に建築。おくどさん・走り庭・鍾馗さ ん・虫籠窓・布袋さん・三和土土間・箱階段・井戸・吹き 抜け空間等を残している。庭は枯山水様式。



第1-033号

松尾家

築90年程経っている建物に,近年室外機に虫籠窓の ピッチや形状を考慮した格子枠をつけ、景観的に配慮 された。京呉服の販売を生業にされ、室内の赤色の配 色により、店頭には品のある色気が感じられる。



第3-046号

三原家

間口が大きく,格子の前にお地蔵さんがある町家である。 大正時代に改装されたと思われる2階の洋間や,トオリニ ワの吹き抜けにある欄間などに特徴があり、通り景観とし ても,これからもずっと京都に残してほしい建物である。



第4-007号

壬生狂言ゆかりの庭(尼ヶ池)

壬生狂言を代表する演目である「桶取」の発祥の地。 尼ヶ池の歴史は古く,平安時代の朱雀院の一部である と言われている。春の壬生狂言の際には、故事通りに 池の水を汲んで壬生寺の本尊に供えられている。



第6-010号

村上開新堂

明治37年(1904)創業の洋菓子店である。看板の文字。 カーブのついたショーウィンドウなどレトロな佇まいが 歴史を感じさせる。店内には木枠のショーケース,タイ ル貼りの床などが当時のまま残されている。



第4-024号

そば茶寮澤正 認定

順正清水店

松風嘉定の邸宅として大正年

間(1912~1926)に建築され,

設計は日本の近代建築に大き

な影響を残した武田五一であ

る。洋館でありながらも随所に

和風の面影が残る貴重な建物

文HP

となっている。

そば茶寮澤正は、かつて貿易商の岩 坪熊次郎が昭和2年(1927)に建て た広大な住宅の応接部分にあたる。 座敷天井板は,伊勢神宮の撤下古 材を下賜されたものと伝っており 施工には最高の技術を持った職人 がついたと言われている。 HP

長楽館認定

明治42年(1909)に,日本

の煙草王・村井吉兵衛が

ヨーロッパの様々な建築

様式を組み込んだ迎賓館

として建築。往時の香りが

残る雰囲気の中,現在はカ

フェ&レストラン。文 HP



第1-044号

第5-031号

JL.

丹嘉認定

総本家ゆどうふ奥丹

創業寛永12年(1635)の精進料

理店である。座敷客間から見え

る庭は,小川が流れ,桜や紅葉

など四季を感じることができ,

600坪という広さもあって通りか

らは想像できないような空間が

広がっている。

京の町にあって親しみを 感じる店構え。ガラス越し に見えるお人形は愛らし く,屋根には鍾馗さんなら ぬ,えびす様や福禄寿,金 太郎さんが並ぶ。

第1-043号

第4-029号

森口家

改築前の看板建築を,京町家らしい木の暖かみのある建物に 復元し、耐震への備えも同時に行われた。デザイン上のアクセ ントになっている防火壁は,延焼防止の役割を果たすだけで なく、町並みを形成している景観要素の1つとなっている。



第3-048号

森田家

白い土壁が特徴的で,天井の煤竹も風情がある。竹内 栖鳳が銅駝校で絵画を勉強していた頃に,下宿していた と伝わる。通りに面する坪庭に、家の前を行き来する人 たちを招き入れて、お茶のおもてなしをされている。



第3-016号

八木家(洛東静処) 認定

白川沿いの広大な敷地に営ん だ別邸を原形とし,現在は居住 棟と土蔵,庭園の一部が残る。 居住棟は,大正天皇即位御大典 でも大きな役割を担うなど当時 を偲ぶ数寄屋風建築として後世 に伝えていくべき住宅である。



ゃぉさん **八百三**

宝暦年間(1751~1764)創業の柚味噌の老舗。総2階 桟瓦葺で,格子,腰板を備えた外観は,当家から作り 出される伝統の味とともに商家としての形が残され ている。



第6-028号

吉川

数寄屋造りの純和風建築と小堀遠州の作庭と伝えられ る百坪あまりの庭園を有する料理旅館。建物は大正7年 (1918)建築で4部屋の茶室を有する。今では手に入ら ない材木が各所に使われている。



第2-058号

青山家

元々精米業を営む。母屋と連続した作業所には水車と 疏水から水を引き込んだ形跡がある。白川沿いの板 塀の外観は写真撮影の場となっている。



第2-014号

あじき路地

長年空き家だった明治末期の長屋を入居者も手を入れて 大改装され、みなが家族のように暮らす若者の創作活動 の職住一体の場として再生された。おだやかで凛とした空 気が流れ,昔ながらのスタイルを保ち続けている。 HP



第4-010号

吉澤家

近年の改修で、全体のバランスを考慮して従来よりも扉格子 のピッチを細かくし繊細さを表現すると同時に, 樋や水切り にも銅を多用して上質感を高めている。真新しく輝く銅の美 しさも時間とともに緑青へと変化して味わいを深めてくれる。



リエノ京都本店(旧ムラナカ理容院)

昭和3年(1928)建築の木造3階建ての元理髪店。煉瓦 タイルの外壁,アーチ型の窓や細かな装飾などを備え た洋風意匠となっている。内部の構成など町家との共 通点も多い建物である。



第6-011号

いづう

創業天明元年(1781)から現在の地で営業。露地,茶 室庭は,多少の変化があるものの,基本的な姿は,創 業当時そのまま。

八坂神社のすぐ近くの東北に位置。数寄屋風の日本

建築で、敷地内から屋根を突き抜ける「椋(樹齢約200

年) の大木の大きな枝が建家全体を覆っている。



第1-034号

市村家

明治初期の建築で、2階の格子や踊りの舞台だった板 間空間など, 御茶屋建築の意匠を伝える四条通に残る 数少ない京町家である。近年,1階外観についても,伝 統的な意匠に復原された。

江戸時代から代々暖簾を受け継ぐ料理店。外回りは黒

文字垣, 二階は虫籠窓, 壁は聚楽となっており, 昔なが

いもぼう平野家本店

らの雰囲気を多くの方が好まれている。



東山区 ■

NEW



今村家 認定

鴨川を挟む五条通から九条 通までの大仏柳原庄の庄屋 として450年続く旧家であ る。建物は,近世中期の町家 の遺構として形式を保ってお り,その来歴・変遷が今村家 文書に詳細に残されている。



ウェスティン都ホテル京都 葵殿庭園及び佳水園庭園 認定

七代目小川治兵衛に築かれた 葵殿庭園は、ダイナミックな雲 井の滝,流れ蹲,沢飛び石など が特徴的で,長男白楊作の佳 水園は、山水が岩肌を這うよう に流れ,繊細かつ躍動感のあ る庭となっている。 文 HP

URAGNO(旧森商店)

いもぼう平野家本家

築90年を超える建物は、日本最初の路面電車を京都で 走らせた京都電燈株式会社の大佛変電所の一部として 建てられたものだと言われ,和洋折衷の意匠が独特な 空間を醸し出している。 HP



オダ薬局

寛政8年(1796)開業の薬局。建物は典型的な町家形 式を残し、奥の光天井がある吹き抜けは、光と影がつ くりだす幻想的な空間を作っている。



第6-012号 第4-009号 第5-030号

小野家

建物は,明治20~30年代頃のもので,特に目を引くの は床脇の天袋で,曲線を活かした独創的な意匠。庭に は織部灯籠が置かれ,水琴窟が埋められている。





第1-038号

鐘鋳町2軒長屋(市川屋珈琲,八重家かねい町)

口伝によると築200年あまりともいわれる木造つし2階建 ての2軒長屋。多くの町家が残る町並みの角地に立地す る本建物は,周辺地域の景観形成に寄与している。近年, 当時の風情を活かしながら新たに改修,再生された。



第6-013号

奥田家認定

景

HP

文

第3-052号



甘春堂東店

慶応元年創業の和菓子店。出格子, 虫籠窓, 軒灯看板, 煙り出しを備えた町家の面影を残す店構えである。元 は菓子工場だったが、昭和末に現在の店構えとなった。 HP 菓子作りと同様に、建物も往時を伝える。



第6-036号

祇園まちなか案内所

築百年の町家を改修され、まちづくりや地域活動、情報 発信の拠点として活用されている。長い路地が印象的で 祇園らしく女性的な造りの家屋である。また,通風採光 の妙を心得た造りとなっている。



第3-051号

NEW

喜多見家

明治末,喜多見家の住まいとして建てられた京町家で,主 屋は二棟がならんでおり、北棟は本二階、南棟は厨子二階。 喜多見家は、粉や糊の貿易で財をなした旧家である。現在 は和東茶を楽しめる喫茶店として使われている。
HP



NEW

旧熊倉家

五条坂の近くに建つ住宅で、昭和初期に建てられた。熊 倉工務店の社屋として使われたこともある。近年改修さ れ,宿泊施設として活用される予定である。



第8-045号

NEW

きゅうせんかく

昭和初期に町会所として建てられた弓矢町の町家。弓 矢町は八坂神社の氏子で,近年まで祇園祭に武具甲冑 姿で行列に参加しており,武具甲冑や古文書などを保管 している。



第8-018号

小町家

京漬物屋兼住居だった築100年の町家を改修した貸 し町家。土間, 通り庭, 虫籠窓, 格子戸, 坪庭など美しい 京町家の意匠が詰まっている。



山科区

望月



昭和初期にお茶屋として建てられたものが平成10年

(1998)に復元された。建物と庭が一体となって景観を

なし,内と外を仕切る垣根の板塀は,洗練された統一感

を醸し出しており町並に融合している。

第1-047号



第2-016号

岩屋寺認定

昔は山科神社の神宮寺で あったと伝えられている。 嘉永年間(1848~1854) に堅譲尼が再興。赤穂義 士大石内蔵助の屋敷跡が 境内にある。

阪本商店

古川町商店街の中央部に位置し、ガラス張りの明るさ と格子などの和の雰囲気を活かした店構えとなってい る。虫籠窓も残る歴史のある建物。



第1-041号

島田食料品店

三条通りに面する古川町商店街の北入口に位置し、木造 で暖かい雰囲気を醸し出している店舗は商店街の三条 通り側の顔となっている。



第1-042号

京都大学大学院理学研究科付属 花山天文台認定 昭和4年(1929)の創立以 来,世界の天文学研究を リードしてきた。山科盆地 から北西を望むと, 東山に

ている。

に建築。

第2-018号

第2-020号

第6-037号

建築家・本野精吾の設計による昭

栗原家 認定

和4年(1929)の建築。中村鎮式コ ンクリートブロック造による3階建 で, コンクリートを露出した先鋭 的な外観表現を用いる。客間と食 堂境の板戸は,施主の鶴巻鶴一 のロウケツ染で飾られている。文

室賀家認定

昭和13年(1938)に竣工

の建物は,伝統的な町家

と近代洋風建築を融合さ

せており, 当時の時代を反

映している。希少で貴重な

京都洛東迎賓館

(旧大野木家) 認定

吉田茂内閣で国務大臣を務 めた大野木秀次郎の屋敷で,

建築事例。

天得院

正平年間 (1346~1370) 創建の東福寺の塔頭。方広寺鐘銘 事件により取り壊され、天明9年(1789)に再建された。本堂 は,江戸中期に移築したものである。桃山時代の作庭とさ れる杉苔に覆われた庭には、桔梗の花が美しい。 HP



NEW 富美代

祇園甲部のお茶屋で,文化年間(1804~1818),大きな お茶屋である富田屋(とんだや)から別家し創業した。現 在の建物は大正3年(1914)に建てられたもので,風格 ある外観は祇園らしさを生み出している。



第7-040号

NEW

半兵衛麸本店

元禄2年(1689)創業の麸屋。町家と洋館が並んで建つ。 町家は1階が展示室とお食事処,2階が事務室,洋館は1 階が店舗,2階がお弁当箱博物館の展示室である。



曼陀羅園 新家

曼陀羅園と呼ばれる住宅地の奥に位置する新家は,主 屋に床の間,格天井をもつ18帖の広間があり、その奥 には,ウィリアム・モリスの壁紙が使用されるなど洋風 文化を巧みに取り入れた洋間が残されている。



第4-032号

森家認定

銀色のドームが2つ並び,

多くの市民から親しまれ

八幡宮認定

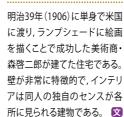
本殿は元禄8年(1695)建

築。桁行3間,梁行2間で切

妻造, 檜皮葺の屋根をの

せる。市内に数少ない切

妻造本殿として貴重であ







迎賓館としても使われた。昭和 14年(1939)に建てられ,現在 は結婚式場などに活用されて

文HP

文景

曼陀羅園 長屋

曼陀羅園と呼ばれる住宅地には,下地窓など数寄屋的 な意匠を備えた上質な長屋が建ち並ぶ。大きな窓から 採光をふんだんに取り入れた間取りは, 昭和初期に注 目された、「健康住宅」を意識されたと思われる。



曼陀羅園 丹羽家

曼陀羅園と呼ばれる住宅地は,昭和初期に丹羽氏など の有志者によって開発された, 当時の住宅開発の好例 である。その入口に位置する丹羽家は、隣接する長屋 群と連担し、当地の景観の要になっている。



第4-030号



第1-078号

第8-054号

岩屋神社

発祥は仁徳天皇三十一年と伝わる。本社の根源は, 山腹に座す陰陽の両巨巌である。社殿は治承年間 (1177~1181)に焼失。弘長2年(1262)に再建され 今に至る。 HP

石垣の上に板塀, 白壁が印象的な住宅で, 蔵と塀越し に見える庭の木々も鮮やかである。古き良き部分を残

しながら改修が施され周囲の景観とも調和しながら、

この地域の町並を豊かにしている。



第4-011号

大石神社

片岡家

昭和10年(1935)に大石内蔵助の義挙を顕彰するた め大石内蔵助公を御祭神として創建された。12月14 日に行われる「義士祭」の最終目的地となっている。



第2-017号

NEW

山科の農家住宅。木造2階建ての大きな民家で,瓦葺 きの屋根には煙出しが見える。敷地の西側を土塀で 囲み,庭を設けている。山科という地域を物語る建物 である。



第8-047号

春秋山荘

奥田家

明治3年(1870)に,滋賀県に建てられた欅造の農家住 宅を,昭和54年(1979)に移築したもの。現在は春秋山 荘として,美術品の展示をしたり,定期的に茶会を開い たりと、文化交流の拠点となっている。



第7-017号

第3-054号

徳林庵 地蔵堂

旧東海道に面して建ち, 唐破風屋根の拝所が付く六角 堂が行きかう人の目に留まる。茶所や荷馬の井戸が残 り,往来の人々の休憩の場として賑わった当時の様子 を今に伝えている。



第5-033号

第1-053号

第4-012号

龍谷大学 大宮キャンパス 認定

杉本家住宅と

杉本氏庭園認定

各1間半の床と棚を装置した座敷

独立棟として西に張り出した仏間

などを有する。要素・空間構成など

が評価される庭園とともに,京都の

中心部における大店の建築遺構と

して、今日まで続いている仕事や生

活を思い起こさせる。 文 HP

京都の歴史とともに歩ん できた建物が残され,現 在も校舎や図書館などと して活用されている。

文HP



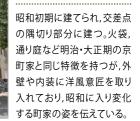
第1-052号

明治後期の建築で,客間 の天井は天然屋久杉の一 枚板,床は松心材の一枚 板,柱は栂の四方柾・北山 杉など,本願寺再建時の端

材が用いられたとされる。

田中家認定

朱雀分木町の 町家 認定



第7-041号

平野家

昭和35年(1960)に建築。材木は樹齢100年程の桧を 使用し,全ての柱,板にはベンガラ塗装が施され,当時 の典型的な田舎の農家住宅。

下京区



第1-048号

NEW 山科別院長福寺

享保17年(1732),東本願寺の境内に建っていた長福寺を 移築し創建された。本堂は天明年間(1781~88)に建てら れたと伝わる。東本願寺の別院で、「東御坊さん」の名で地 域に親しまれている。春はお花見、秋は紅葉でにぎわう。



第8-046号

今西軒

明治30年(1897)創業のおはぎ専門店で、昭和初期の 建築と推測される本2階の町家。商品を並べるショー ケースなど、老舗の雰囲気を伝えている。看板を掲げた 外観は賑わいを感じさせる。



第6-038号

亀屋陸奥

応永28年(1421)創業の和菓子の老舗店である。漆喰 壁で木瓜形やハート形などの虫籠窓があり、堀川通沿 いで,近代的な建物が立ち並ぶ中,西本願寺とともに本 願寺界隈の景観を形成している。 HP



第4-034号

関西電力京都支店

昭和12年(1937)に武田五一により設計された鉄骨鉄 筋コンクリート造8階建のオフィスビル。様々なモダン デザインを取り入れていた同氏の意匠に対する意識が 感じ取れる建物である。



第6-014号

ギャラリーのざわ(山田家)

黒色のタイル貼りの外壁を持つ大正15年(1926)建築 の町家。座敷のほかおくどさんや火袋が残されており、 落語会やミニコンサートなど,市民の方が幅広く町家 の文化を体感できる空間として親しまれている。



第6-015号

NEW

旧橘家(望月家)

昭和初期に建てられた総2階建ての表家造の町家。通 り庭,火袋など,建築当時の意匠がよく残っている。今 後も家族で維持・継承して行く。



第8-048号

NEW 旧中邨家

昔の姿を残している大型の町家。祇園祭の物見台が 残っている。しっかり手入れされていたため建物の状 態がよく、大きな改修もされておらず、貴重な町家で ある。



第8-028号

京都タワー

京都の玄関口である京都駅前に立地する展望塔。京 都に戻ってくると、暖かく迎えてくれるその姿にホッと する人は少なくないはずである。



第2-022号

NEW 興正寺

真宗興正派の本山。御影堂と阿弥陀堂は明治44年 (1911)に再建された。境内には,三門,阿弥陀堂門, 経蔵,鐘楼,茶室などが建つ。近世から近代にわたる真 宗寺院の遺構である。



第8-027号

旧村井銀行 七条支店認定

遠藤家 認定

明治36年(1903)建築の

厨子2階建京町家。本2階

建が普及する過渡期で

あった明治後期の一典型

をなす。上質で保存状態

景

の良い貴重な町家。

第1-050号

第6-039号

村井銀行七条支店として 大正3年(1914)に建築さ れた煉瓦造2階建ての建 物。ドリス式オーダーの正 面が外観の特徴。七条通 の大正期の景観を伝える 建物である。 HP



きんせ旅館 認定

祇園床 認定

町会所。祇園祭で「一里塚

神饌式」が行われる長刀鉾

の巡行休憩所だったが,巡

行コースが変わった現在

も,稚児・禿が礼拝する「抹

茶拝喫」が行われる。

第2-023号

江戸末期の建築で元揚屋 と伝わる建物。出格子,下 見板の腰壁, 2階の掃き出 し窓が張り出す意匠を備 えており, 当時の地域の歴 史を今に伝えている。

景田日

小林家

出格子のついた高塀造り。2階建切妻の蔵が目立つ。奥 庭には水琴窟があり、市中とは思えない静かな空間と なっている。材料・職人技術が高く洗練された京町家。



しきさいビル

昭和6年(1931)建築の鉄骨鉄筋コンクリート陸屋根3 階建て。外観は洋風で白壁でありながら庇は瓦という 現在の景観条例を先取りした粋な建物。



第1-051号

<u></u> 柴田家

万寿寺通間之町の南西角に建つ町家。茶道具商を営んでいたため、設えは茶道や作陶を嗜む歴代の主人の洗練された趣味を色濃く反映しており、受け継がれている生活文化も貴重である。万寿寺通に残る数少ない大型町家である。



第8-020号

髙田家

昭和4年(1929)に建築された木造2階建て切妻造, 桟 瓦葺の京町家。木製引違戸の横桟や丸窓の組木に赤 漆が施されており, 建築主のこだわりも随所にうかが える。



第6-018号

久世橋の西に位置する神社。本殿は綾戸宮と國中宮 の二社が祀られている。國中宮は祗園社と同じ素戔嗚 尊(すさのおのみこと)を祀り,久世駒形稚児が祗園祭 の神輿を先導する。



第8-022号

石原家

煙出し、虫籠窓を持つ明治期の建築と思われる農家型 住宅。周辺地域の往時の景観を残す建物となっている。 塀と門越しに見える庭は、木も大きくよく手入れをされ ている。



第6-021号

髙山家

昭和初期に建築された都市近郊の農家型住宅。外壁は 真壁漆喰塗り、1階腰壁の下見板張り、2階の格子や虫 籠窓を持った外観は良好な通り景観を形成している。



第6-017号

ちもと

300年の歴史を刻む,間口の広い木造3階建ての数寄屋造の料理屋で,京都ゆかりの文化人や歌舞伎役者等に愛されてきた。鴨川の畔にあり,夕闇に沈んでいく東山を眺めながらの座敷での宴では,京都ならではの贅沢な時間が過ごせる。



第3-017号

伊藤家

NEW

綾戸國中神社

昭和初期に葉茶屋の商家として建てられた町家である。看板建築に改変されていた外観を、当時の趣ある 佇まいに修復された。内部は、格天井や筬欄間がある本玄関など格調高い造りが随所に見られる。



第4-035号

大橋家

明治20年(1887)頃の建築と言われる重厚な主屋と門を持つ農家住宅である。古来から豪雨時に冠水し易い地であったことから、敷地北側に向け、地上げが施されている。



第5-034号

辻商店

アーチ状の窓、ロンバルド帯を巡らせた切妻を備えた外観とは対照的に、町家の平面構成を持ち、昭和3年(1928)建築当時の新しい技術やトレンドを取り入れつつ伝統的な住まいと商いの場との統合を試みた稀有な建物である。



第6-019号

NEW 東華菜館本店

昭和元年(1926)に建てられた北京料理店。設計は米国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ。四条大橋西詰に建つ洋館で、ランドマークとして親しまれている。タコ、ホタテ貝、巻貝などをモチーフとした装飾が見事で、日本最古のエレベーターも貴重である。



第8-021号

吉祥院天満宮

菅原道真公没後31年目にあたる承平4年(934)に創建された最初の天満宮。境内には吉祥天女社や道真公のへその緒を埋めた塚もある。



第1-054号

寿湯

昭和初期頃の建築と推測される銭湯建築。唐破風の入口が残り、二階に美しい欄干が残る。油井型の煙突の基部は、レンガ積みである。京都の銭湯の典型的な建築様式である。



第6-040号

友田家

明治45年(1912)の建築の町家である。米屋を営まれてきた建物から住宅へ時代ごとに役割を変えながら代々大切に使用されている。最近、虫籠窓が復原されるなどファサードの改修が行われ、大宮通りの景観に寄与している。



第4-013号

中村家

本2階の比較的大規模な町家である。聚楽土で押さえられた外壁, ベンガラが塗られた木部, 虫籠窓, 平格子などの多彩な意匠は, 間口が広い商家造りの特徴を持っている。



第6-020号

鈴木組

昭和初期の木造2階建て洋風建築。外壁に石・タイルを多用し、内部は漆喰塗りで、天井・壁とも模様をかたどった趣のある仕上げとなっている。



第2-027号

田中家

通りに面して,薬医門と塀を構えた,明治初期の建築の農家住宅である。大戸を開けると広い玄関土間,玄関の間には衝立ての調度品が季節に合わせて設えられ,訪れた者を迎える。



第4-014号

林英社屋

昭和13年(1938) に工場兼事務所として建てられたもの。道路に沿って長い塀が建ち、新町通の景観に寄与している。天井の高い大空間は,風呂敷工場であったことをしのばせる。寄宿舎棟も残されている。



第7-018号

林冢

主屋は元治の大火で焼失後、明治初年に建てられたものと伝わる。通りに面して出格子と門を開く高塀が延び、主屋は少し後方に置かれて、その間に前庭と玄関への通路があり、更に奥には座敷庭を挟んで土蔵が配されている。



第3-018号

田中家

明治初期の農家住宅で、現在は、畑が駐車場になっているが、通りに面して畑を持ち、奥に建物を構えるという、この村の屋敷の特徴を残した配置となっている。主屋には、「ねずみいらず」と呼ばれる穀物を保管した納屋が残っている。



第4-015号

田中家

竹田街道に建つ商家風の町家で、江戸時代末に建てられたと伝わる。玄関横に出格子があり、ばったり床几が残る。竹田街道を彩る建物。



第6-041-

明王院 不動寺

平安京造営前に開基された。弘法大師作の石仏不動明 王が本尊である。桓武天皇が王城鎮護のため京都の東 西南北に設置した磐座の一つである南岩倉である。



第2-026号

田中家門

長谷川家

れている。

武者窓が施され、腰板は船底の板が使用されたと云われている長屋門である。塀は、当時から3分の1の長さとなったが、今でもその偉容を伺わせている。

南北の古道に面した農家型住宅で,広い前庭や主屋に

は煙出しがあり、屋根瓦の総数は約1万枚と大規模なも

の。内部はおくどさんや箱階段が建築当時のまま残さ



第5-008号

第6-022号

中塚家門

重厚な長屋門, 白壁の美しい土蔵とその間の塀がこの 一角を美しく彩っている。本宅は, 新しく建て直された ものの, 門, 塀, 土蔵や緑豊かな庭は, かつてここにあっ た風景を思わせる。

大家根に煙出しを備えた佇まいが古さを物語ってい

る。虫籠窓の丈が低いのが一層の古さを感じさせ,改

修された部分はあるものの, 昔の趣きが残されている。



第5-035号

第5-036号

一本区



長谷川家認定

京町家の影響を受けた 切妻・瓦葺きの木造2階 建て農家住宅。「寛保2年 (1742)築造」の祈祷札 がある。明治期作成の図 面を基に修復された。

文HP

NEW



六孫王神社國定

東寺の北に位置する神社。源経基が祀られており、彼が遺した「死後も龍神となって子孫繁栄を祈る」との言葉から池は神龍池と名付けられ、手水舎には龍があしらわれている。文景 HP

日の出湯

昭和3年(1928)に建築。京都の銭湯の典型的な姿を完全な形で残しており、現存している京都の戦前築の木造銭湯の中で最大規模。

HP



山下家

塀に囲まれ美しい庭を持つ農家住宅。塀越しに見える 虫籠窓を備えた主屋や土蔵は、地域のかつての景観を 伝える貴重な建物となっている。



第6-029号

■ 右京区



第2-030号

第1-059号

愛宕神社 認定

全国に約900社を数える大宝 年間(701~704)創建の愛宕 神社の本社。江戸期の建築と伝 わる本殿などの建築物の欄間 には, 菊や鳳凰など見事な彫 刻が施され、この社の価値を高 める要素となっている。 HP

卯瀧家 認定

自然な美しさに魅せられ

る茅葺き屋根が,母屋と

納屋の2棟で維持されて

いる。集落の高台にあっ

て,絵画的な風景を醸し出

天使の里 霞中庵 認定

近代日本画家の第一人

者, 竹内栖鳳(1864~ 1942) が自らの画室とす るために設計監修し,美し

い庭と贅をこらした見事 な数寄屋造り「霞中庵」を

完成させた。

している。



第1-057号

井上家認定

築400年と伝わり、自然豊 かな北嵯峨の地に, 白壁 の築地塀で囲まれた茅葺 きの民家。かつて20数歩 町の田畑を有した豪農の 風格を変わりなく維持し ている。





第7-019号

昭和12年(1937)に建てられた邸 宅。質の高い和風住宅である主屋 に加え,双ケ岡の斜面を利用した ひろびろとした庭園には,茶室や 待合が建てられている。茶室の付 書院のような窓からは御室の山 を眺望することができる。

慈眼堂

愛宕道に建つ御堂。堂内に藤原定家の念持仏と伝わる 千手観音立像が安置されている。現在は中院町の町会 所としても使われており、嵯峨野の歴史・文化を伝える 貴重な建物である。



第7-020号

庄野家

入母屋造平入の茅葺(茅葺の上にトタン葺)の農家住 宅。時代とともに改修が施されているものの,往時の景 観を伝える建物である。また,欄間彫刻が意匠を凝らし ており素晴らしい。



第2-036号

月輪寺

愛宕山の東方深い山中に位置している天応元年(781) 開創と伝わる山岳寺院。標高570mに位置し、眼下に京 都市街を一望できる境内には,本堂,祖師堂,権現堂, 宝物殿等が配されている。



第6-024号

中川家

座敷と納戸の間の建具が珍しい。土蔵の入口には「こて 絵」がある。現役の井戸は今も大切に使われている。



第2-037号

中川家

街道筋に瀟洒な長屋門を構える。門を入ると大きな石 組が置かれた庭園と玄関が目に入る。母屋の縁から は,清滝川と西明寺が浮かび,都名所図会等に描かれ た景色を見るようである。



おくどさんが立派で、冠のある透かし彫りは「猪の目」 と呼ばれ目を見張る。



第2-038号

床, 天井, 軸組みに目の通った太い良材を使用する重



平野屋

古くより愛宕神社の門前町として賑わい,街道沿いに茶店等が



第3-019号

厚で風格ある作りとなっている。たたきの土間,七つ 竈,屋敷構えの土蔵等保存状態も良好。



藤野家

明治維新の際,維新勤皇隊山国隊を取りまとめた藤野 斎の生家。神社神職として仕えてきた旧家。立派な長 屋門が残る。



第2-040号

建ち並ぶ嵯峨鳥居本の町並みの中にあって、400年の歴史があ り中核をなす茶屋である。外観、内部とも江戸時代にタイムリス リップしたような野趣あふれる茶屋の面影を残している。HP



今西家校倉

小倉山居

入れた新趣な思想で建築。

京北でも雪の多い地域に建っている穀物倉庫と思われ る。校倉は近年利用されなくなっているが、次代には、昔 の知恵として伝えておくことが大事である。

平屋造りで,主座敷を中心に茶室を伴い,洋風応接室

を付設した伝統的和風築に現代的な洋風建築を取り

1600年代後半の建築と思われる茅葺屋根の建物であ

る。室内には「ちょんながけ」とみられる柱が残る。紅

殻を使った腰戸や戸などが美しい。



第1-058号

第2-033号

HP

ウッドラフ家

河原林家

小山家

夏涼しく、冬暖かく、湿気もとってくれるたたきで土間 が作られており、おくどさんともマッチしている。自然 素材で作られたものは人にも環境にも優しい。

築後500~600年。京北山国地域の民家で北山型と言

われる。千木が九つ屋根の天辺に載る大屋根である。

江戸時代から続く薪炭商を営まれていた建物である。不運にも

安政期に火災により土蔵以外が焼失したが安政3年(1856)に再

建。当時の薪炭倉庫や車折神社から曳家した離れとともに薪炭

商当時の状況が伺える炭俵や帳面などの品々が残されている。

囲炉裏やおくどさんは現役で利用されている。



第2-031号

■ 西京区 |

NEW



大原野神社認定

京都盆地を望む丘陵地にある神 社。周辺には里山が広がり神社の バッファーゾーンを形成している。 綺麗に整備された竹林もあり,竹穂 垣が美しい小道が整備されている。 神社の境内は殿上人が遊んだ昔を しのぶことができる。 文 HP

カトリック桂教会 認定

木工家具デザイナーのジョージ・ナカ

シマの設計で昭和40年(1965)に完成

した。緩やかに曲線を描きながら反り

上がる屋根と,それに対峙する十字架

が力強く美しい。内部空間は行灯等の

日本的要素に加え,アメリカ経由の日

本と言うべき雰囲気を持つ。 HP

第8-024号

第5-009号

かぐや姫 竹御殿認定

昭和初期, 竹職人の名工長野 清助が「竹取物語」へ思いを深 め,27年の歳月をかけて造った 竹尽くしの建築物である。内装 には, 竹をモザイクタイルのよ うに散りばめた仕上げをはじめ 様々な技法による意匠が残る。

NEW



五社神社認定

茅葺き屋根と楠の大木が印象 的な神社。神事芸能などの風 習や,明治以前の神仏習合の 様子をよく残している。本殿は 文化6年(1809)に建てられ, 奥行きに比べ間口が広く,平 面形式や構造が独特である。

第4-016号

第2-032号

木下家

椹木家の本家。明治の建築。梁や大黒柱が太く、部屋の 空間がダイナミック。ベンガラ塗りの格子が印象深い。 茶室,庭,蔵など雰囲気がある。



椹木家

椹木家の分家。昭和元年(1926)以前には建つ。大き な梁が特徴的。部屋から広がる庭の眺めは自然と一体 となった暮らしを感じさせる。



第2-035号



第2-066号

第8-029号



浄住寺 認定

元禄10年(1697)創建の本堂 とその後方に位牌堂,開山 堂, 寿塔が並ぶ。一連の建物 は,京都市内には数少ない黄 檗宗を代表するもので,特に 開山堂と寿塔は黄檗宗寺院 の特色をよく残している。 🗵

中村軒認定

創業明治16年(1883)の老舗饅頭屋

である。約30年前に住居部分を茶店

にする等,時代の変化に準じて建物に

手を加えられているが、むくりのつい

た大屋根に煙出し、虫籠窓等が残って

おり, 店先の雰囲気から当時の往来客

の様子を想像させられる。 HP



第3-023号



第5-039号

奥には6畳の上段の間があり、欄間・ 床・違棚のある書院造りの建物で, 山陰街道樫原宿場町の陣屋であっ た豪華なたたずまいが感じられる。 街道の両側に虫籠窓を持つ町家 が続く町並みの中心となる,住民に

山口家(苔香居) 認定

京都西山の自然や四季と

調和しながら佇む旧家で

ある。端正な風格のある長

屋門が,東海道自然歩道

を散策する人,道行く人を

魅了している。

玉村家 認定

第3-021号



伏見区

NEW

新居家認定

石積みの一段高い敷地 に, 洋館2階建てと和風2 階建邸宅が建つ。庭園に は枯池があり,数寄屋造の 離れが迫り出して建てら れている。 文

岡本家認定

元医院と伝わる建物で,壁

の仕上げやハーフティン

バー風の意匠は,全体的に

ドイツ民家風となっている。

応接室や元診療室と思われ

る部屋が残され医院建築の

京都教育大学まなびの森ミュージアム

【旧陸軍第十九旅団司令部】認定 明治30年(1897)陸軍施

設として建築。第19旅団

司令部がおかれていた。

近年, 創建当時の姿に復

元し、「まなびの森ミュー

ジアム」として一般公開し

ている。

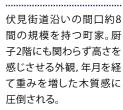
面影を今に伝えている。

第2-041号

第6-026号

第1-063号

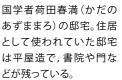




伊東家認定

第2-042号

荷田春満旧宅認定



国学者荷田春満(かだの あずままろ)の邸宅。住居 として使われていた邸宅 は平屋造で,書院や門な

岩崎家

瓦塀を巡らせた規模の大きな農家住宅である。屋敷構 えの全体が道路から一目で見渡せることから散策する 人の目を強く惹きつける建物である。



第5-037号

太田家

約170年前に建てられた典型的な庄屋式屋敷である。木造 一階の母屋を中心に,表門脇の客殿や七福神の鬼瓦を置い た米蔵・衣装蔵,屋敷外の小川から取水する池泉鑑賞式の庭 園など,都市近郊の農村の典型である景観を後世に伝える。



文景

第1-062号

小西家認定

木造中2階建ての主屋,離 れ,道具蔵,米蔵からなる。 座敷の趣きのある意匠材 料や, 土間と中2階の見応 えのある梁組など質の高 い建築物。

景



郷倉

平安京遷都後,樫原近郊の十二郷に年貢米等が収蔵される郷倉 が建立されたのが起源。樫原は山陰街道きっての物資集積地で あり、明治になり郷倉が村に下賜されると、米等の集積場として 活用された。他の郷倉はなくなり、現存する貴重なものである。

切妻造平入つし2階建てで,もっこう型の虫籠窓が備

わっている。各所改修されているものの立派な本玄関

を持ち、地域の農家住宅の歴史や景観を感じさせる。



第3-020号

軒の深い下屋は袖壁があるのみで,柱が無く作業性の 良い広い空間を確保している。また,厨子二階の左官 は淡い空色で、虫籠窓の格子は左右異なるデザインに なっており、縁取りされた青い色が魅力的である。

天平勝宝年間(749~757)に創建された寺院。応仁の

乱で焼失したが,元和元年(1615)に再興された。東山

を借景とした「鳥獣の石庭」を持ち、本堂には鎌倉時代



第5-010号

第6-042号

第1-067号

聖母女学院本館 認定

明治41年(1908)に旧帝 国陸軍16師団本部として 建築。内外部とも建築当初 のままに残っており,外観 や内部デザインなどは見 る者を魅了する。

長尾天満宮 認定

文HP

HP



第1-068号

木造モルタル造で,洋風 建築という特異性を持ち 外観,脱衣場がほぼ建築 時の姿を保っている貴重

な建築物。

宝湯認定

昭和6年(1931)に竣工。

中村家

齋藤家

桂大橋を街道沿いに西へ向かうと,新しい家が並ぶ路地の向 うに白く輝く漆喰壁の土蔵が見える。裏の通りからは煙出し、 虫籠窓といった伝統的な意匠が認められ、手入れされた庭や 座敷の様子から、生活の表情を感じることができる。



第3-022号

永谷家

の千手観音像が祀られている。

正法寺

集落に向かう道すがら現れる茅葺きの屋根。庭先から 広がる畑と相まって、かつての農村の姿を今に伝えてい



笠5-011号

第5-014号

平安時代に創建された醍醐 寺の北東山麓にある神社であ る。社殿は,文政4年(1821) に再建されたと伝わってい る。深い緑の木々に囲まれ た, まっすぐに延びる参道が 印象的な美しい神社である。



昭和11年(1936)に建てら れ,隣接する御香宮神社と の調和が見事。平日は幼 稚園児の歓声,日曜日に は礼拝堂で聖歌の声が聞 こえてくる。

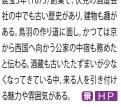
HP

日本聖公会

桃山基督教会認定

第1-070号

増田德兵衞商店 認定 延宝3年(1675)創業で、伏見の酒造会



東川島自主防災部器具庫

本願寺西山別院の境内に建つ妻入り桟瓦葺きの平屋 の木造建築物で,地域の防災意識の歴史を感じさせ る建物である。向かい合って建つ数軒の古い木造の 民家と一体となって町並みを形成している。



龍淵寺

戦国時代の天正10年(1582)開山で、明智光秀公からいただい た土地で今も継承している。動乱の世に建立されて以来,今な お樫原の人々に「心のよりどころ」として存続しており、仏事があ ると檀家が先祖供養,平穏無事を感謝するため参拝される。



第3-025号

藤田家認定

旧街道沿いにある旧家で,明治 初期に建てられた。港の近くであ るため,かつては旧街道沿いに は,旅籠,飲み屋,ばくち場が点在 していた。主屋は街道から後退し た位置に建ち,玄関前で米を牛 車に積み替え、京に運んだ。 又



第8-055号 第3-028号



洋風と和風の意匠を持った 2 階 建ての建物で、スクラッチタイル 調の外壁や木製建具が当時の まま残されている。玄関入口に かかる木札には,電話番号と思 われる漢数字が記されており, 当時の面影を残している。 文

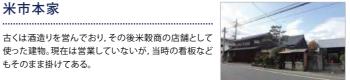




第3-030号

山田家認定

醍醐寺南門の向かいにあって,土 塀に薬医門を構え,主屋の玄関 に入母屋の式台玄関を設ける。 庭も比較的良好な状態が保たれ ておられ, 醍醐寺の周辺に点在す る,地域の歴史を感じることの出 来る重要な建物の1つである。景



第1-065号

しも村

門前の旧街道に面して建つ,昭和初期建築の手打ち蕎 麦屋である。建物の2階には、建具に沿って欄干が回り、 当時の様子を現在に伝える。



第5-013号

山本家認定



鳥羽伏見の戦いで焼亡し た後,明治29年(1896)に 再建。商売の便のため表屋 に接続して店蔵を構え,蔵 前から奥を母屋とする変 わった設計になっている。

駿河屋伏見稲荷支店

米市本家

もそのまま掛けてある。

創業約80年の和菓子店である。昭和6年(1931)ごろの 建築で、建物の外観や店の様子も建築当初から現在ま でほと んど変わらず,現在も薪を使って銅鍋で餡子 や羊羹を炊くなど昔ながらの製法が守られている。



第4-019号

瑞光寺

境内入口にある萱葺きの山門を潜ると本堂の萱葺き屋 根が目に入る。その屋根のシルエットは、この寺を再興 した元政上人の衣姿を彷彿させる。





第1-066号

清和荘

昭和32年(1957)創業の三代続く料亭旅館で、昭和初期の風 情が継承されている数寄屋造の建物と日本庭園が融合され た広い敷地を持つ。墨染通りに面する大門をくぐると庭木の お出迎え,通りの騒音から隔離された別世界が広がる。HP



NEW 津田家

伏見南浜に建つ町家。津田家は両替商と炭屋を営み, 伏見界わいの商いと生活を支えた。奥行きの深いトオ リニワや広大な庭から当時の繁栄ぶりがうかがえる。



飯田家土塀と門

飯田家は, 醍醐寺の寺侍を勤めた家柄である。主屋は 数年前に建て替えられたものの, 江戸期のものと思わ れる土塀と門は現存し、醍醐寺周辺の景観を形成して いる。



第4-036号

景

井上治療院

昭和初期に建てられた店舗兼用住宅。外観は洋風建築 で,三連のアーチが特徴的な洗練された意匠は,薬局 の格式の高さを窺わせる。



第1-060号

西之大坊 大雲寺

天正18年(1590)深草山寶塔寺の仮本堂として建立。 近年,中原正治氏により庭園を改造。茶室から見る庭園 は幽玄の世界を満喫できる。



第2-044号

にしむら亭

伏見稲荷大社山茶屋。二階建ての寄棟造りの建物と,西 側にある木造平屋がある。特に平屋からの西方向への 眺望は素晴らしい。



第1-069号

浮田家

明治中期に建築された建屋及び納屋から構成される。建屋が面 する通りは、明治元年(1868)の付け替え工事まで木津川の堤防 であり、建屋背面の高基礎がそのことを示す。建屋の表と裏の表 情の違いは興味深く、水運で栄えた美豆の繁栄を偲ばせる。



第3-026号

大岩神社

岩を御神体とする神社。数多くの塚や石灯籠が立ち並 ぶ。大鳥居と小鳥居は、この神社と縁が深い堂本印象 による寄進で,自らデザインした人物,動物,文様など が施された独特の意匠である。 HP



第7-021号

長谷川家

築約130年の農家住宅である。約400坪の敷地には,主 屋,表蔵,たつみ蔵などが建つ。主屋の屋根が特徴的 で重厚な重ね妻となっている。



第1-071号

平宗酒店

創業明治34年(1901)の酒店である。建物は大正15年(1926) の建築で、出入口の木引戸や虫籠窓が残る外観をはじめ当 時のままの状態を維持しており、京都伏見の酒の蔵元が多く 軒を連ねる伏見南浜界隈の景観を形成している。 HP



第4-020号

太田家

旧島本銀行と伝わるこの建物は,玄関に半円を描く石 の階段や銅板に覆われた柱, さながら蔵のような窓枠 が備わるなど当時の銀行の面影を伝えている。



第5-012号

奥川家

土塀に囲まれて、土蔵や庭があり、立派な門がある豪農 ともいうべき農家造りの建物。現在は、土蔵と門が残っ ており,道行く人の心を和ませてくれる。



第1-061号

前田家納屋

昔は水害が多かったため、船が家に備え付けられてい る。現代では失われた生活の痕跡や知恵が残っており、 羽束師地域の歴史,文化的な生活や地域性を象徴して いる。



第2-060号

明治に建築の伝統的な礎石立ちの住宅で,玄関の構え や軒が素敵である。門をくぐると目に入る植え込みは迫 力がある。居間から縁側越しに見下ろす庭も、視線の高 さと木々の配置が巧みに操作されている。



第2-061号

尾﨑家

大津街道沿いに建つ築90年,木造つし二階建て,切妻 平入の農家住宅。田の字型の間取りと大きな梁が特徴 的で, 虫籠窓, 煙出し屋根などが残され, 当時の名残を とどめる地域の貴重な財産となっている。



カトリック伏見教会

教会の敷地内には教会堂,司祭館,便所棟があり,教会 堂と司祭館の間にある庭園は瀟洒に整備され,全体の コンパクトな構成は見る者に心の安らぎをもたらす。



第1-079号

南里公民館

昭和25年(1950), 大工や左官などが多く住む職人町に 建築された木造の公民館である。切妻造木造平屋建て に入母屋の玄関が突出している。町内で今でも大切に 使われている。



第5-015号

淀古城跡地に建てられた。本堂には鳥羽・伏見の戦い の際に砲弾が貫通した跡とその実砲弾が残る。四季 折々の花も植えられている。



木田醤油 浜納屋

以前は木津川に面しており、船荷の積み降ろしを行なっ ていた納屋。川へ荷降ろしするための石段も残る。この 地域の船運で賑わっていた頃の往時を彷彿させる。



金札宮

NEW

伏見区最古とも伝わる神社。天太玉命(あめのふとだま のみこと),天照大神(あまてらすおおみかみ),倉稲魂神 (うがのみたまのみこと)が祀られている。現在の社殿 は嘉永元年(1848)に建てられた。 景HP



山田家

主屋は,木造つし2階建て桟瓦葺きに煙り出しを突き出 している明治後期頃の建築。農家らしく広い土間を持 ち,部屋は2列に6室あるなど,日本に多く見られる平面 形式の一つと言われている。



ランプ小屋

明治13年(1880)から大正10年(1921)まで走ってい た旧東海道本線のランプ小屋として使用。石油など危 険物を扱う建物であったため, 堅牢な煉瓦で造られて HP いる。



第1-077号